



DIVERSIFICATION

TECHNOLOGY

# OUR CHANGING SCHOOLS

## 学校現場の昔と今に迫る

学校をのぞいてみると、昔は当たり前だった光景が、今では様変わりしています。  
その背景には何があるのか。  
そして今は、どのような光景が見えるのか。  
学校現場の昔と今に迫り、  
子どもたちのこれからの未来について考えます。



POWER OF COMMUNITY



UTILIZING PRIVATE EXPERTISE





## SPECIAL TALK



### 伊賀 友信 先生

20年前 市外の小学校に勤務  
現在 教育委員会に勤務

### 大須賀 奈津子 先生

20年前 神田小学校に勤務  
現在 大東小学校に勤務

### 水野 亮 先生

20年前 大府南中学校に勤務  
現在 大府小学校に勤務

### 万浪 真広 先生

20年前 市外の小学校に勤務  
現在 共和西小学校に勤務

### 山岡 めぐみ 養護教諭

20年前 市外の小学校に勤務  
現在 大府中学校に勤務

先生たちに聞いてみた

# 20年前と今の違い

約20年前はピカピカの若手教員、現在は市内の小・中学校で、ベテラン教員として働く5人を  
お招きし、学校現場で実感する昔と今の違いについて話していただきました。

#### 学校現場を振り返る

**大須賀** 20年前となると、「ゆとり教育※1」の真つただ中ですね。  
**万浪** 学校週5日制が完全に始まったこと  
も思い出します。

**水野** 2002年4月から「総合的な学習  
の時間」が全面实施され、中学校現場では  
試行錯誤していました。

**伊賀** 特色ある教育になるよう、先生み  
んなで検討していたことを思い出しますね。  
**万浪** 自分で調べて、自分で課題を解決  
していくという方向に、学習指導要領が向  
かっていた最中でした。先生たちも一斉授  
業だけでなく、個別の学びを取り入れてい  
ました。

**水野** さらに、子どもたちへの評価が、  
「相対評価」から「絶対評価※2」に変化し  
ました。努力する子どもをしっかりと評価  
できるようにだったので、学校教育が非常  
に良い方向に進んでいるなと思いました。

#### 授業風景を振り返る

**水野** 最近、熱中症対策で体育館にエアコ  
ンが導入されましたけど、教室に扇風機が  
導入された時は画期的でした。

**大須賀** 今は、体育館での体育は安心で  
きるけど、運動場での体育はまだまだ配慮  
が必要ですね。子どもたちには必ず水筒を  
持たせて、小まめな水分補給を心掛けてい  
ます。

**山岡** 養護教諭の立場から見ると、以前  
と比べて熱中症への理解は深まってきまし  
た。その他にも、心のケアや食物アレル  
ギー、色分けによる男女の区別など、配慮  
は進んでいますね。

#### 未来の学校のカタチ

**伊賀** 最近では、長期欠席の子もたちへの  
支援も積極的に取り組んでいますね。教育  
には絶対に目標があり、その目標の達成に  
向けた指導を続けるとともに、時代の変化  
の中で学校も変化を求められていると思い  
ます。今後の学校の在り方についてはいか  
がでしょうか。

**万浪** 今の子どもたちは、人と関わる時  
間や機会が減り、スマホやゲームに向き  
合っている時間が長いと思います。集団生  
活の中で、人と人が関われるような授業を  
今後も取り入れていきたいと思っています。

**大須賀** ICTの発展で、子どもだけでな  
く、教員の業務も劇的に変わりました。い  
ろいろな技術を活用して、子どもたちによ  
り良い教育をしていきたいです。

**水野** 地域と一緒に子どもたちを支  
え、学校を通して、子どもたちが将来に活  
躍できるような授業を考えていきたいです。

**山岡** 今は、スクールソーシャルワーカーや  
スクールカウンセラーなど、学校内にさま  
ざまな専門職がいます。引き続き、学校  
全体が一つのチームとなって、子どもたち  
を支えていきたいです。

#### ※1 ゆとり教育

学習内容の削減や完全学校週5日制  
の採用など、ゆとりを持った教育が採  
用され、自分で学ぶ意思を育成する  
ことが目標とされた。

#### ※2 絶対評価

2002年に導入。集団内での順位に  
かわらず、個人の能力に応じて、評  
価する方法。

なぜ、学校現場は  
変わってきたの？



### REASON 1 急速な技術革新やグローバル化が 進む時代に入

近年では、情報技術やグローバル化の  
進展により、国内外の情報・文化に触れ  
る機会が増えています。例えば、オンラ  
インでつながるスマホやゲーム機などのI  
CT機器の普及、ChatGPTなどの生  
成AIの登場など。急速な社会変化に対  
応するため、子どもたちには、予測困  
難な社会を生き抜く資質・能力を学校  
で身に付けることが求められています。  
そこで、時代の変化や社会の流れに学校  
も早い段階での対応が必要とされ、令和3  
年度に国がGIGAスクール構想を立ち上  
げ、タブレットの導入などの現代に合わせた  
学習環境の整備が全国的に始まりました。

### REASON 2

#### 学校の役割や教員の仕事が多様化

かつての学校の役割は、授業・生徒指  
導・部活動・学校行事を行うことでした。  
現在は、心理・福祉面の支援、通学路の  
安全確保、学校外での生徒指導、保護  
者対応などの比重も大きくなり、教員に  
求められている仕事が多様化しています。  
「学校現場における業務改善のための  
ガイドライン」によると、現在は教員が  
子どもと向き合える時間を確保するた  
め、学校関係業務における役割分担の  
明確化や校務などのデジタル化、専門  
的知見を有する人材の配置などを行い、  
学校が一つのチームとなって、子どもを  
教育する仕組みを始めています。

### REASON 3

#### 学習指導要領に基づく教育が基本

学習指導要領とは、文部科学省によっ  
て、学校教育の在り方や各教科の具体  
的な内容をまとめているガイドラインのこ  
と。社会や教育環境の変化に伴い、子ど  
もたちが身に付けるべき資質・能力も常  
に変化するため、約10年ごとに改訂され  
ています。各学校は、最新の学習指導要  
領に基づき、教育課程を編成しています。

#### 最新の学習指導要領のポイント

H29改訂

#### 子どもたちに必要な力を3つの柱として整理

子どもたちに求める資質・能力が明確化され、  
「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学  
びに向かう力・人間性」の3つの柱に整理されま  
した。通知表も、以前は各教科で評価する観  
点が異なりましたが、現在は、3つの柱に  
沿った全教科統一した観点で評価しています。

#### 個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実

子どもたちは、知識・技能だけでなく、問題  
解決能力・コミュニケーション能力など、さまざ  
まな資質・能力を身に付ける必要があります。そ  
のため、これまで多かった教員の一言講義形式の  
授業ではなく、「主体的・対話的で深い学び」の  
実現に向けた授業の改善が求められています。

#### 教科・科目の新設・見直し

代表的な変化が、小学校外国語活動の5・6  
年生の教科化、プログラミング教育の必修化、  
道徳の時間の「特別の教科道徳」としての位置  
付けて、どれも現代社会を生きる上で、必要  
な教科・科目です。他にも、言語能力の確実な  
育成や理数教育、伝統・文化に関する教育の充  
実などがあります。

**万浪** 褒める割合は、圧倒的に増えてま  
した。良いところを伸ばすような指導です  
それに合わせて本人が自分で考えて、直さ  
ないといけないことは自分で気付かせるよ  
うな指導法にしています。

**水野** 「卒業後にお互いが目を反らすよう  
な関係になるな」と昔、先輩に言われまし  
た。叱ったり、褒めたり、なだめたりしま  
すが、卒業までに、時間をかけて信頼関係  
を築くことは大切です。

**大須賀** 自分を理解してくれる先生が好  
まれている印象があります。そこに信頼関  
係が生まれるのではないのでしょうか。

#### 部活動・学校行事などを振り返る

**伊賀** 新型コロナも相まって、学校行事も  
少しずつ変化していますね。

**万浪** 運動会は、半日で実施しているとい  
ろが増えたのではないのでしょうか。

**伊賀** 今は、中学校の部活動の地域移行  
や小学校の課外活動の終了など、変化が  
ありますね。

**万浪** 大きな時代の変化ですね。「何で  
も教員がやらないといけない」という時代で  
はなく、「地域みんなで子どもたちを育て  
る」という仕組みになっていると思います。

**水野** 部活動が、青春そのものだった子も  
多かったのではないのでしょうか。子どもたち  
の卒業文集を見ても、部活動のことを書  
く子どもが多い印象があります。

**万浪** 地域に全部お任せではなく、教員  
と地域が一体となって、子どもたちに競技  
に合わせた専門的な指導をするシステムが  
望ましいですね。

#### 子どもたちとの関わり方を振り返る

**万浪** 褒める割合は、圧倒的に増えてま  
した。良いところを伸ばすような指導です  
それに合わせて本人が自分で考えて、直さ  
ないといけないことは自分で気付かせるよ  
うな指導法にしています。

**水野** 「卒業後にお互いが目を反らすよう  
な関係になるな」と昔、先輩に言われまし  
た。叱ったり、褒めたり、なだめたりしま  
すが、卒業までに、時間をかけて信頼関係  
を築くことは大切です。

**大須賀** 自分を理解してくれる先生が好  
まれている印象があります。そこに信頼関  
係が生まれるのではないのでしょうか。





## グローバル社会に備える

### 小学校で英語の授業が始動

令和2年度から、3年生で外国語の授業が始まっています。具体的には、3・4年生で「外国語活動」を開始し、5・6年生で教科書を使った「教科」としての英語が始まります。以前は、「教科」としての英語は、中学生から開始していました。

小学生から教科書を使っているよ



### 中学生の英語能力が上昇

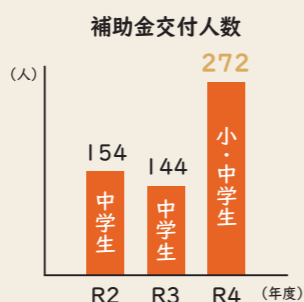
小学校の英語教育の改革に伴い、中学校では、以前と比べると教科書で扱う単語数が1.5倍に増えています。これは、以前の高校レベルの単語量です。さらに、高校で習う文法の前倒しなど、難易度がアップし、聞く・話す・読む・書くの技能の総合的な充実が図られています。

小学生のうちから単語・文法・会話の基礎を学んでいることから、中学校ではレベルの高い内容を学習でき、中学生の英語能力は上昇しています。



### 受検料補助制度で子どもたちを後押し

市は、グローバル化する社会に果敢に挑む、子どもたちの英語力の向上などを目的に、英語検定3級以上を受検する小・中学生の保護者に対し、英語検定受検料の補助を実施しています。また、市役所に英語検定3級の特別試験会場を設け、受検機会の確保も図っています。さらに、学年に応じて、成績優秀者には、「ミモザ賞」を授与しています。



※令和4年度から補助制度の対象を小・中学生に拡大しています。

## 元教え子×教員コンビ

大府南中学校  
田中佑樹先生

大府南中学校  
仲村美保先生



### 小学生からの英語教育により、格段に英語力が向上

大府南中学校では、英語専科の教員が4人配属されていることから、2年生の授業は、教員2人体制で英語を教えています。英語が苦手な子へのフォローができるので、とても助かります。実は、仲村先生は私が中学生の頃の英語の先生で、こうして教員となって再会することができました。

今の教科書は、昔に比べるとサイズが大きく、習う量や英単語が格段に増えています。私たちが高校生や大学生で習った単語が、平気な顔して教科書に登場してくるぐらいです。さらに、昔の中学校の授業はアルファベットを書くことから始まっていましたが、今は書けることが前提で授業が始まります。これは、小学校で、ある程度英語に親しんできているからだと思います。

また、子どもたちは、1人1台タブレットを持っているので、すぐに正しい発音を確認したり、スピードを変えた音読練習をしたりできます。英語の発音についても、小学生の頃から英語でのコミュニケーションに慣れているので、みんな恥ずかしくがらずに話すことができ、英語力の向上を肌で感じられています。

## 学校現場にも多様な学びを

平成29年の学習指導要領の改訂により、授業の教科・科目にも変化があります。そして、国は、学校・地域の特色を生かしたカリキュラムを作ることを呼び掛けています。ここでは、市内の小・中学校の多様な学びについて触れます。

## 心を育てる

### 道徳の必要性の高まり



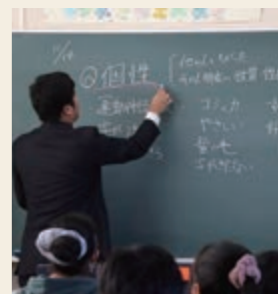
吉田小学校  
大石 遼先生

#### 考えを深める大切な時間

道徳は、原則教科書を使って授業を進めますが、同じテーマの内容であれば、学級の様子に合わせた教材を選んで授業を行うこともあります。今回は、「個性」についてみんなで考えました。子どもから出た意見に質問や問題提起をして、さらにみんなで話し合っただけで考えを深めることを意識しながら授業を進めています。

小学校では平成30年4月に、中学校では平成31年4月に、道徳の時間が「特別の教科 道徳」として位置付けられました。

道徳は他の教科とは違い、正解がありません。そのため、教員が子どもたちのそれぞれの考えを尊重し、議論に向き合う姿勢や学習状況、心の成長などを言葉で評価します。



## 環境問題を身近に捉える

### SDGsを意識した学び

最近、SDGs(持続可能な開発目標)を学校教育で扱うことが増えています。それは、世界が気候変動や資源の枯渇、生物多様性の喪失など危機的な状況に見舞われていることを、日本における昨今の猛烈な暑さや熱中症対策を通して、自分事として捉えられる機会が増えてきたからです。未来を生きる子どもたちは、これらの問題を自らの課題と考え、身近なところから取り組まなければなりません。

大府小学校で 10月11日、大府小学校で、外部講師から学ぶ出前講座「SDGsについて考えよう」を開催しました。この講座は、5年生を対象に4つの企業の外部講師を招き、身近なSDGsの取り組みについて学ぶもの。子どもたちは、使用済みのパソコンを解体し、リサイクルの大切さを学びました。



## 地域の特色に触れる

### バイオリンを活用した音楽教育の導入

明治期に日本で初めてバイオリンの量産化に成功した鈴木バイオリン製造(株)の本社工場がある大府市。バイオリンとの深い縁がある大府市ならではの取り組みとして、令和5年度から全小学校の4年生を対象に、バイオリンを使った音楽教育を開始しました。講師として、スズキ・メソッドの伊藤達哉先生らをお招きし、親切・丁寧な指導で子どもたちは『きらきら星』が弾けるようになりました。

#### 楽しかったからまた弾きたい

初めてバイオリンを弾きました。弦が4本しかないのに、弓の角度や押さえる位置でいろいろな音が出て面白かったです。

バイオリンは思ったよりも重くて、弾き終わった後は肩が痛かったけど、楽しかったので、またやってみたいです。

北山小学校  
松田青依さん



実際に教室をのぞいてみた

昔と今で違うこと



## 部活動地域移行に向けたモデル事業が始動

現在、部活動の在り方が大きく変わろうとしています。市は、令和5年3月、今後の部活動の地域移行の方向性を示す「大府市中学校部活動地域移行ビジョン」を公表しました。部活動の地域移行とは、これまで教員が担ってきた部活動を、地域の活動として位置付けることです。市では、8月から中学校で、部活動地域移行に向けたモデル事業を開始し、子どもたちは地域の指導者から専門的で高度な技術を学んでいます。



### 選択の幅が広がるようコーディネート

子どもたちがしっかり活動できるよう、行政・企業・大学と連携して、より良い地域の活動とすることを目指しています。部活動が地域の活動に移行すると自由度が増し、今まで学校の部活動にはなかった競技にもチャレンジできるようになります。今後も、子どもたちに選択の幅を広げられるコーディネートをしていきたいです。

一般社団法人LISOBU

塩澤恵美さん



地域の指導者

竹内智江さん



### スポーツに親しめる

今は週に1回程度、大府西中学校のバスケットボール部で指導しています。素直な子が多く、指導していてとても楽しいです。

地域の指導者に教わることで、子どもたちは生涯を通してスポーツに親しむことができますと思います。

## 課外活動の終了 市独自の活動を開始

これまで、小学校高学年を対象に陸上・サッカー・金管バンドなどを実施していた小学校の課外活動。大会やコンクールに向け、教員の指導のもと、子どもたちは授業後や休日に練習に励んでいました。しかし、令和3年度をもって課外活動を終了したため、今はそのような光景は見られません。

そこで市は、子どもたちが引き続き、身近な地域で運動や文化的な活動に参加できる機会を確保するため、独自の「おおぶカルチャー&スポーツ(カルスポ)」を令和5年度から開始しました。課外活動でも行われていた金管バンドと、体操やドッジボール、話題のスラックラインなどの多様な種目を組み合わせた総合運動を実施しています。心身共に大きく成長するこの時期に、専門的な指導のもと、経験したことのないスポーツや楽器の演奏にチャレンジできることは、大きなメリットと言えます。



カルスポ 金管バンド 講師

内田正則さん

小久保知華さん



### 子どもたちが輝ける場所を新しいカタチで継承

今までは、子どもたちが放課後に集まって活動をしていたのが当たり前でしたが、今はそうではありません。寂しさを感じていたので、こうしてカルスポが導入されたのは、素晴らしいと思います。カルスポを通して、学年を超えた新しい友達ができますし、貴重な経験ができます。金管クラブでは、最初なかなか楽器を吹けなかった子が、諦めずに一生懸命練習して吹けるようになります。その時の子どもの目は、とても輝いています。子どもたちが輝ける場所を守るお手伝いができたらと思っています。

吹けるようにしたよ



## はつらつ運動プログラムの実践で 体力向上

平成29年度から保育園や児童(老人福祉)センターで実施してきた「運動あそびプログラム」を発展させ、小学校の体育の授業で体力向上を目指す取り組みとして、令和2年度に一部の小学校で開始した「はつらつ運動プログラム」。現在は、全小学校の1年生を対象に体育の授業内で、専門家による運動指導を行っています。子どもたちは、このプログラムを通して、できなかったことがたくさんできるようになり、自信を得るとともに、新しいことにも積極的に挑戦する姿勢が養われています。

### 子どもたちが思いっきり挑戦できる場所を提供

マット運動や跳び箱などのテーマに沿って、段階別で一個ずつ積み上げていくようなプログラムを意識しています。子どもだけの一人練習だと危険が潜んでいることもあるので、「これをするとケガをしにくい」という安全にできる方法を専門的立場から伝えています。安全に子どもたちが挑戦できる場所を作ることができるので、こういった活動がどんどん広がっていけばいいと思います。

講師

小山晋介さん



# 学校現場にも民間活力を

全国的に教員の働き方改革が課題になる中、市も教員の働き方について検討を始めています。しかし、学校現場の中心にいるのは子どもたち。教員の働き方改革の一方で、子どもたちにより良い学びを提供するための工夫も隠れています。ここでは、民間活力を導入した教育について触れます。



## 水泳授業の 民間委託 が始動

学校における夏の風物詩になっていた水泳授業。現在は、市内全小学校の水泳授業を民間委託し、子どもたちは専門的な指導のもとで泳力の向上を図っています。冬にこの写真?!と思った方もいるでしょう。水泳といえば夏をイメージしますが、屋内プール施設を活用することで、天候・季節を気にせず、水泳の授業ができることもメリットの一つと言えます。

### レベルに応じたきめ細かい指導が可能

授業の評価をするのは先生なので、事前に先生と授業内容について話し合い、最終的なゴールに向けた指導ができるよう心掛けました。先生一人では、全然泳げない子から上手に泳げる子まで、幅広く見ることは大変だと思います。経験豊富なスタッフによる専門的な指導により、子どもたちのレベルに応じたきめ細かい指導ができるので、子どもたちにとっても良いことだと思います。

水泳民間指導者 (株)linkworks 石井正行さん







## 学校現場にも 地域の力を



学校に関わるのは、教員だけではありません。  
子どもたちの健やかな成長のため、地域の方をはじめ、多くの皆さんの協力により、学校は成り立っています。  
ここでは、縁の下の力持ちとして学校現場を支える方について触れます。

### 子どもたちの絶対的な味方

## スクールソーシャルワーカー

スクールソーシャルワーカーは、社会福祉士・精神保健福祉士などの資格や教育・福祉の活動経験を持ち、子どもたちを取り巻く環境へ働き掛けたり、関係機関などとの連携・調整を行ったりします。市は、一人一人が抱える多様で複雑な背景を適切に把握し、きめ細かな支援をするため、令和5年度からスクールソーシャルワーカーを1人増員し、2人体制にしています。

#### 先生と連携しながら手厚くサポート

その子なりの自立と社会参加ができるよう、まずは心の中の素直な気持ちを打ち明けてもらえる関係作りを心掛けています。市は、社会的・福祉的資源をたくさん持っています。その子の困り感を把握し、専門機関などと連携して支援を行います。今まで学校の先生だけで頑張ろうとしてきたところに、福祉的視点を持ち、協働することで、手厚く子どもたちのサポートができるよう考えています。

スクールソーシャルワーカー  
丹羽弘菜さん



石ヶ瀬小学校  
蟹江陽太先生



#### 多面的に把握できます

スクールソーシャルワーカーは、子どもの内に秘めている思いや悩みなどを、表情や仕草から読み取り、いろいろ聞き出してくれます。その子に対する見方が一つだけではなく、多面的に見ることができ、今後の支援や指導に生かすことができます。教員だけではなかなか把握できないことも知ることができ、子どもたちへのアプローチの仕方も一緒に考えることができるので、とても助かります。

#### 技術も作法も丁寧に指導しています

息子が大府西中学校で剣道をしていたので、よく部活動の様子を見に来ていました。その他にも、大府西中学校のPTA会長をやっていたり、親父隊として活動していたりと大府西中学校にはご縁があり、ぜひ剣道部の技術の向上に貢献したいと思い、令和2年度から部活動指導員として活動してきました。

大府西中学校の剣道部は、全員が初心者なので、一から教える楽しさがあります。剣道は、礼で始まり、礼で終わる。剣道の技術面はもちろんのこと、剣道を通して礼儀作法の大切さを教えています。

部活動指導員 麦田達弘さん



#### 技術の向上が実感できます

学校以外の場所で練習をする時に、いろいろな人から「麦田先生は良い指導者だから、麦田先生に指導してもらっている大府西中学校がうらやましい」と言われます。実際に、麦田先生は、一人一人の良いところは伸ばし、悪いところは的確にアドバイスをしてくださります。

大府西中学校剣道部 部長 加藤虎助さん



## 学校現場にも ICTの力を

現在、1人1台スマホを持つ時代。  
いつでもどこでも情報が収集できるスマホの普及は、私たちのライフスタイルを激変させました。  
それは、子どもたちが学ぶ学校にとっても例外ではありません。  
ここでは、学校現場でのICTの活用について触れます。



### TECHNOLOGY

## ICT機器を使った授業が日常化

昔は、教員が黒板にチョークで文字を書き、子どもたちがそれをノートに写すことが一般的でした。しかし、現在の教室にはICT機器がたくさん。教室には電子黒板、子どもたちの机にはタブレット端末が置いてあります。

写真の授業は、栄養教諭から学ぶ食育の授業。全ての授業ではありませんが、どの教科の授業でも、教員は電子黒板を使い、子どもたちはタブレット端末を活用しています。さらに、宿題もタブレット端末で出すことがあります。昔は、教員が宿題の確認を紙で行っていましたが、今は、タブレット端末を活用して、自動チェックができています。

### DIGITAL

## デジタル教科書の活用に向けた 実証事業が始動

国が実施する「学習用デジタル教科書実証事業」に参加し、一人一人のタブレット端末内にあるデジタル教科書(英語・数学)を活用した授業も始まっています。この教科書のおかげで、タブレット端末を活用し、自宅で効率的に自主学習ができます。近い将来、登下校で使うかばんの中から紙の教科書が消える日が訪れるのかもしれません。

### APPLICATION

## 学校情報連絡アプリで 事務改善



昔は、帰りの会などで、教員が子どもたちに保護者宛ての手紙を配布していました。そんな光景も、今は減少傾向にあります。市は、令和4年10月、学校と保護者との連絡をサポートする「学校情報連絡アプリ」を導入しました。学校からの連絡や、イベントのチラシなどは、このアプリを通して保護者にお知らせしています。

さらに、学校への欠席連絡をアプリから行うことができるため、朝の忙しい時間に電話連絡が不要になる上、正確に欠席連絡が伝わり、保護者や学校の負担軽減が図られています。

配布書類を電子データで配信するので、紙の使用量を削減するとともに、教員が行っていた印刷業務の負担軽減にもつながっています。

### PROGRAMMING

## 必修化された プログラミング教育の実践



市は、令和2年度から小学校で必修化されたプログラミング教育を実践していく上で、必要な知識・指導案・年間計画などをまとめた指導手引書「FUN! プログラミング」を発刊しました。この手引書をもとに、全小学校で共通意識を持った授業を実践しています。

### 子どもたちの技術向上に貢献

## 部活動指導員

部活動指導員は、競技・指導についての専門的な知識・技能を持ち、顧問の代わりに実技や傷害予防の指導から大会などへの引率までを行うことができます。学校や顧問と連携しながら、部活動の質的向上を図る新しい時代の指導スタッフと言えます。現在、市内には、19人の部活動指導員が活躍しています。



# 変革を続ける学校現場

子どもたちの「できない」が「できる」に変わる瞬間をたくさん見た、今回の特集取材。

取材を通して感じたこと、

それは、子どもに関わる全ての方が、子どもたちの成長を期待していることでした。

コロナ禍で、急速に学校におけるICT化が進み、

今ではタブレット端末を活用した授業が当たり前となりました。

新たに始まったプログラミング教育からコーディングのスキルを学ぶだけでなく、その時代を生き抜くため、論理的思考力・創造性・問題解決能力などの育成も目指しています。

一方で、知識を身に付ける教育は、オンラインなどのデジタルで代替しやすく、オフラインでの学校の学びに疑問を持たれる方が出てくるのが危惧されます。

しかし、SDGsを意識した取り組みやバイオリンを活用した音楽教育など、主体的・対話的で深い学びを重要視する授業も増え、オフラインでの学びの価値も高まっています。

さらに、人・モノが国境を越えやすくなったことで生まれたグローバル化の進展。

これまでの日本における英語教育では、読み書きや受験英語に重点が置かれ、実践的なコミュニケーションツールとしての英語が身に付かないという指摘がありました。

そこで、新学習指導要領で示された新たな英語教育により、国際社会でも活躍できる人材を育てる教育が始まっています。

子どもへの学校教育は、今や教員のみが行う時代ではありません。

今の学校現場では、民間のノウハウ、専門職の的確な助言・サポート、地域の方の支えのもとで、ワンチームとなって子どもたちを育てています。

学校は、急激な社会変動に密接に関わるため、日々変革を迫られています。

これも次世代を生きる子どもたちの将来のため。

子どもたちの将来を思い、変革を続ける学校現場をいつまでも応援し続けます。

# 大府の宝 子どもたちの未来を応援

長期欠席者を総合的に支援

## おおぶレインボープランの策定

学校現場の昔と今を取り上げてきましたが、子どもたちの価値観にも変化が見られます。今の学校現場には、子どもたちの複雑な環境や多様な価値観があることも考慮し、社会の多様性を尊重することが求められています。

全国的に長期欠席の子どもの割合は増加傾向にあり、令和4年度には全国の小・中学校で長期欠席の子どもの数が、過去最高の約30万人となりました。市も例外ではなく、小・中学校ともに年々増加傾向にあり、長期欠席の子どもへの支援が求められています。

そこで、市は、長期欠席の子ども一人一人が抱える、多様で複雑な背景を把握し、状況に応じた環境づくりや相談体制の充実を図り、子どもの自立と社会参加を促進し、身近に幸せを感じられるよう、令和5年11月に「おおぶレインボープラン」をまとめました。



長期欠席の子どもたちへの7色の支援

- 学校内における居場所の充実
- 学校外における居場所の充実
- ICTを活用した相談支援・居場所の充実
- 相談支援体制の充実
- 地域における活動との連携
- 切れ目のない支援に向けた関係機関との連携・情報交換・研究
- 長期欠席への理解の促進

## SPECIAL INTERVIEW

### 自分の人生を 自分らしく生きてほしい

「一人の子を粗末にする時、教育はその光を失う」。大正から昭和にかけて活躍された安部清美先生のこの言葉を自身の戒めとしています。教員の働き方改革は、手を抜くことではありません。ひと手間かける、手塩にかけるという思いをなくしてしまつては、子育ては輝きを失くします。現場の教員は目の前の子どもに集中し、子どもたちに応じた指導方法をいつも考えています。教員の多忙化解消は教育行政の課題で、教育委員会としては、教員が子ども向き合う時間と心の余裕を少しでも多く持てるよう、仕組みの見直しや改善を進めてきています。

この20年間で、「ゆとり教育」の実施とその見直しがあり、タブレットの導入やプログラミング学習の開始、小学校英語・道徳の教科化などが続き、今後も急激に世の中が変化し、学校現場も時代に合わせて変わっていくことが予想されます。しかし、時代が変わりつつも、学校には不変的な役割があります。それは、学校が「学び合う」場だということです。友達の発言に自分の考えが揺さぶられ、自身に新たな気づきや考えが生まれることは、学び合いの醍醐味です。一方的に教えるのではなく、互いに学び合う空気や学習の展開を大切にしたいと思っています。

市教育委員会 教育長 宮島年夫

